

令和6年度 半田市総合計画市民評価委員会 議事録

開催日時	令和7年1月24日(金)	10時00分~11時30分
開催場所	半田市役所4階 庁議室	
会議次第	1. あいさつ 2. 議題 (1) 令和6年度半田市総合計画市民評価報告書について(資料1) 3. 連絡事項 (1) 来年度の年間スケジュールについて(資料2) (2) 令和6年度市民評価報告書における提言への対応について 4. 市民評価報告書の受け渡し、市長・副市長との懇談会	
出席委員	(委員長) 千頭、(副委員長) 鈴木 (委員) 沢田(勉)、小柳、桑山、榊原、上野、杉本、岩浪、伊藤、 沢田(貢) ※敬称略	
市職員	市長、副市長、企画部長、企画課長、斎藤、倉野、武田 ※市長、副市長は懇談会のみ参加	
議事概要		
1. あいさつ	(企画部長) あいさつ	
2. 議題 (1) 令和6年度半田市総合計画市民評価報告書について	(事務局) ・資料に沿って、前回会議(12月19日)の意見を踏まえた修正点を説明 (委員長) ・令和6年度半田市総合計画市民評価報告書として決定してよろしいか。 (全員) ・異議なし。	
3. 連絡事項	(事務局) (1) 来年度の年間スケジュールについて説明 (委員長) ・次年度の中間見直しにおいて、注意すべき点はあるか。 (委員) ・市民アンケートは、回答者に伝わりやすい設問内容とするべきである。アンケートの内容について、事前に市民評価委員へ共有し、意見を求めてみてはどうか。 (事務局) ・そのようにする。 (委員長)	

	<ul style="list-style-type: none"> ・設問に注釈を加えることで、アンケート結果がよくなったという実績がある。次年度は前半 4 年間の評価のまとめを行うため、注釈をつけることで結果が大きく変わるとなると、正確な数値の比較ができなくなる可能性もあるということを踏まえてアンケート内容を検討する必要がある。中間見直し後のアンケートについては大きく見直すことになる。 <p>(副委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPI も中間見直しのタイミングで見直すということによろしいか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値と指標が乖離している部分などを現在の社会情勢等を見ながら検討する。 <p>(事務局)</p> <p>(2) 令和 6 年度市民評価報告書における提言への対応について説明</p>
4. 懇談会	<p>—— 委員長から市長へ令和 6 度半田市総合計画市民評価の報告 ——</p> <p>(委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員それぞれの立場で、様々な意見をいただいた。 今年 5 つの施策を評価し、環境、医療体制、都市基盤、行財政は A 評価、協働は B 評価となった。いずれの施策においても、庁内評価より市民評価が高い結果となった。特に医療体制については、庁内評価は成果指標に基づき C であったのに対して、市民評価では A 評価とした。コロナ禍において、適切な対応ができていたという点で、A 評価が妥当であると判断した。また、矢勝川の水質問題についても、委員会で話題になった。矢勝川は環境の面だけでなく、観光の面においても重要なものになるので、市境を超えた問題であり、難しい部分もあると思うが、ぜひとも頑張っていたいただきたい。都市基盤において、新病院へのアクセス道路への関心も高かった。道路の整備も頑張っていたいただきたい。 <p>—— 写真撮影（委員長・市長） ——</p> <p>—— 懇談会開始 ——</p> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民評価委員になって、半田市の取組を知ることができ、良い機会をいただいていると感じる。半田市の頑張りを知り、それを多くの人に伝えることができるように意識している。 ・毎度言っているが、よい取組を伝えきれていないことが多くある。ホームページや LINE など様々なツールを利用して広報していると思うが、それと並行してアナログの広報を実施することも重要だと感じる。 ・総合計画においても、評価委員会で出た意見がどのように各課に伝

わっているのかが気になる。

- ・各施策を PR することにおいても、ただポスターの掲示をお願いするだけでなく、より効果的に PR できる掲示方法を伝えるなど、丁寧に人に伝えるということを意識してほしい。昨今のデジタル化推進により、広報の方法も多種多様になっているが、アナログの方法による広報も大切にしていきたい。

(委員長)

- ・課長ヒアリングをする中で、市としては広報しているつもりであっても、そのことを知らない委員がいるということがあった。

(市長)

- ・PR の部分は毎度指摘していただく部分である。漠然とした発信方法はよくないということについて、庁内でも周知していきたい。庁内での情報伝達については、我々も課題として捉えていたので、このような意見をいただいたということを推進力にして、どう伝えるかを考えていきたい。

(委員)

- ・委員会を通して、市がどのような未来を描いているのかを知ることができて良かった。この委員会に参加するまでは、他の市と比較するという視点がなかったが、比較することで半田市の優位性をより分かりやすく伝えられることに気づいた。
- ・半田市が「はたらく親を応援するまち」というテーマを持って施策を推進しているということ、ロゴマークを庁舎に大きく掲げるなど、もっと市民に分かりやすく伝わるような工夫をすると、半田市のイメージの定着につながると思う。
- ・市民協働について、自治区は小さい単位なので、意見を反映しやすい面があり、そこにやりがいを感じる。様々な人との関わりの中で、自分には何ができるのかを考える意識をもった人が増えると、理想的な市民協働を実現できるのではないかと。
- ・市公式LINEは、市の情報がすぐに分かるような仕組みになっていてありがたいと思うとともに、自治区でもそのような仕組みが整備されるとよいと思う。市の取組に準じて自治区でも同じような動きが見られると、暮らしに密着した市政運営ができ、よりよい市にしていくという市民の意識向上に繋がると思う。ぜひ、自治区の運営にも、市民協働課だけでなく、市としても協力体制を取っていただきたい。

(市長)

- ・はたらく親を応援するまちは、子育てのことだけを言っているわけではなく、全部署に関わるものである。市の取組は、全職員が関心を持って取り組んでいく必要があると思っているし、そういう組織でありたいが、まだまだ足りない部分がある。
- ・協働の取組については、市民目線に立って、市民が「やってみよう」と思うような発信方法になっているか、見直すように職員に共有した

いと思う。

(委員)

- ・この委員会に参加して初めて知ることが多かった。医療体制の施策においては、休日歯科診療所の設備が古いと思っていたが、他の市町と比べると、このような施設があること自体が恵まれているということに気づいた。
- ・小中学生にも、総合計画に関することを含めて、意見を出してもらい機会を与えることで、自分が暮らすまちのことをもっと知ることができ、これから自分たちが半田市をもっとよくしたいという意識を持ってもらうことができよいか。

(委員)

- ・中学生との関わりをもっと増やしていただきたい。今の学校での授業は、みんなで一緒に考える（協働学習）内容も増えているため、みんなで話し合い、意見を言う機会を与えることが大事だと思う。総合計画を見て、半田市の未来をみんなで考えるような授業があると良いと思った。
- ・はたらく親を応援するまちについて、半田市が積極的に取り組んでおり、その言葉が浸透しているを感じる。市内の子育てをする親たちは、半田での子育てについて不満はないように感じるが、半田だからよかったというところまでは至っていないとも感じる。こんなところがあるから半田がいいよねと思えるような施策があると良いと思う。

(市長)

- ・まちづくりに関して、昔は大人だけで取り組むイメージがあったが、今は若い世代の力を使っていこうということで、様々なイベントで高校生が手伝ってくれることが多くなった。「オール半田」をスローガンに掲げているが、これは0歳から年配の方まで全員が対象になってくると思っているため、中学生や高校生の意見も聞いていきたいと思う。
- ・はたらく親を応援するまちに関する施策について、保育園等でのおむつのサブスク、お昼寝ふとんの貸与といった、知多半島内でも先進的な取組を実施している。他の市町ではやっていないことにこれだけ力を入れているということをもっとPRしていきたい。
- ・PRについて、市民の意識が半田市に向いていないと、どれだけ発信しても響かないため、市民がまちづくりに関わりたい、まちの一員であるという意識を高めていくことが大切であり、市民がそう思える市政運営をする必要がある。
- ・市民討議会というものを実施しており、無作為抽出で市民が選ばれる。それをきっかけに半田市政に関わってもらい、周りにも広めても

らうことで、市民がまちづくりに関わる意識が広まっていくと良いと思う。

(副委員長)

- ・ 行財政の施策において、久世市長に変わったことで市政運営がどのように変わったかという質問に対して、「はたらく親を応援するまち」を掲げた市政運営になったと聞いた。今お話しを聞いて、全ての部署で「はたらく親を応援するまち」に関わる取組を考えていることは良いことだと思った。
- ・ 人口減少で税収が下がっているという話がよくあるが、昨今では納税義務者数が増えている市町村も多くなっている。共働きが増え、特に女性の納税義務者が増えているというデータも出てきているので、そのような観点からも「はたらく親を応援するまち」を掲げた姿勢運営は非常に整合性があると感じた。

(市長)

- ・ 半田市は総合力が知多半島でナンバーワンだと思っている。ぜひ皆さんにも半田の広告塔になっていただけたらありがたい。

(副市長)

- ・ PR 方法や情報発信については昨年の委員会でもご指摘いただき、この一年で色々考えてきたが、今年も同じようなご指摘をいただき、進歩できていないと感じた。半田市の弱い部分であることを十分に認識し、真剣に取り組んでいく。何か良いアイデアがあれば、ぜひともご教示いただければと思う。今年一年ありがとうございました。

—— 写真撮影（全体） ——

(終 了)